

# ハーモニー

Harmony

第49号 2009年6月12日発行

日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座

後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

## 目次

理事長挨拶 — 新役員体制について — .....	2
新理事抱負 .....	3
第17回学術集会のお誘い .....	4
第17回学術集会（弘前）のご案内 — 第2報 — .....	5
助成金研究の経過報告	
「幼稚園における養護教諭の配置と役割に関する研究」 .....	5
「養護診断における効果的な問診に関する研究」 .....	5
学会活動	
「養護教諭の職業倫理に関する規定の検討委員会」の経過報告 .....	6
学会誌第13巻第1号投稿原稿の募集 .....	7
編集委員会委員の紹介 .....	7
2010年度研究助成金申請者の募集 .....	7
理事会等の活動報告 .....	8
事務局より .....	8
編集後記 .....	8

## 理事長挨拶

### 一新役員体制について

理事長 後藤 ひとみ(愛知教育大学)

本会の前身である全国養護教諭教育研究会が発足したのは1992年11月のことです。それから16年経った昨年、初めての選挙による理事改選を行いました。6ブロックの有権者計510名のうちの264名が投票を行い、8名の理事が選出されました。

さらに、会則第10条「(5)理事長は、地域と職域・年齢等を考慮して、会員の中から若干名の理事を指名し、理事会で決定する。」の規定に基づき、職域を考慮して現職養護教諭の方々を理事として推薦させていただきました。前理事である鈴木薫先生(中国・四国ブロック)と山崎隆恵先生(関東ブロック)には引き続き理事への就任をお願いしました。また、3月末までの教育委員会指導主事の経験を生かしていただくために、永田智恵子先生(中部ブロック)を新たな理事としてお願いしました。いずれの方も養護教諭経験が長く、学校での実践や行政機関での研修指導の体験をもとに学会運営の充実にご尽力いただけるものと思います。監事は今野洋子先生(北海道・東北ブロック)と瀬口久美代先生(九州ブロック)をお願いしました。

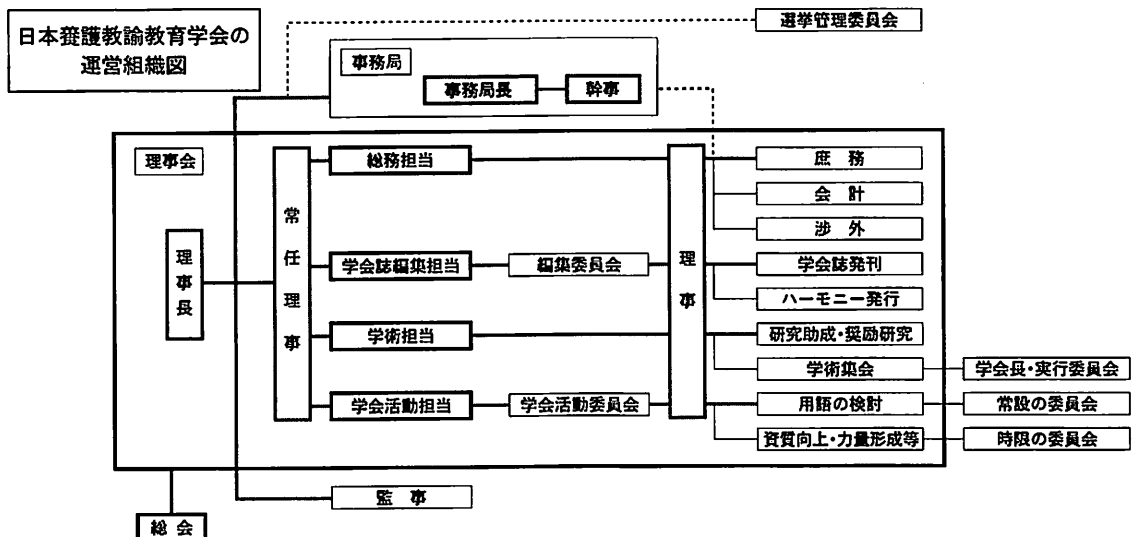
また、今期から常任理事体制をとることになりました。会則第10条(6)の規定及び日本養護教

諭教育学会常任理事に関する内規に則った実施です。常任理事の委嘱は、選挙制によって全国各地から理事が選出されることを勘案して考えられました。推薦制に比べると広域から理事が集まるために生じる時間や経費面での負担を軽減する効果が期待できます。常任理事4名を柱として業務分担を行うことにより、理事長と常任理事による協議やそれぞれの部署での協議といった小回りのきいた合理的運営を図ることも期待できます。

そこで、第1回の理事会では常任理事及び各理事の役割、事務局とのかかわりなどをわかりやすくするために下図のような運営組織図を作成しました。これにより、本会運営の4つの柱とそれぞれが統括する業務が見えやすくなったと思います。

今期(2009年度～2011年度)は、本会設立から20年を迎える節目の年へとつなぐ大事な時期にあたります。よって、これまでを総括しつつ、20年後、30年後の本会が「養護教諭の資質や力量の形成及び向上」にますます寄与できる学会として発展するような礎を築くという役割があると考えます。具体的には、量的な面で大いに会員増を図ること、質的な面で日本養護教諭教育学会だからこそできる学会活動の充実を図ることが必要です。これからの3年間、10名の理事とともに、監事や幹事の方々のご協力を得ながら努力していきたいと思ひます。

会員の皆さまにおかれましては、まもなく20歳を迎える本会の発展にむけて、今後ともご支援・ご協力の程をお願い申し上げます。



## 新理事抱負

### 新理事のご挨拶

常任理事：総務担当

山崎 隆恵 (神奈川県立綾瀬西高等学校)

総務担当常任理事として、前期に引き続き庶務も担当させていただきます。常任理事を置く新しい体制ですので、会員の皆様の会費を無駄にせず、最大限有効に使える会の運営を心がけながら、本学会での学びを深めて行きたいと考えています。

### 学会員みんなの力で

常任理事：学会誌編集担当

鈴木 裕子 (国士舘大学文学部)

学会誌編集担当の常任理事として、竹田編集委員長の後を引き継ぐという大任を仰せつかりました。学会誌については、発行回数の増加など懸案がいくつかありますが、まずは計画どおり1冊発刊することをめざします。皆様のお力により学会誌が一層充実し、養護教諭に関わる学術研究の発展、養護教諭の資質等の向上に寄与できればうれしく思います。ご指導ご協力の程よろしく申し上げます。

### 新理事のご挨拶

常任理事：学術担当

高橋 香代 (岡山大学)

この度、学術(学会・研究)担当の常任理事を拝命しました。研究助成金申請や学会誌投稿の奨励など、皆様のご協力のもと学術活動を推進していきたいと存じます。

### 学会の活動のさらなる発展と充実を願って

常任理事：学会活動担当

三木 とみ子 (女子栄養大学)

このたび、理事として、また学会活動担当常任理事をさせて頂くことになりました。

養護教諭に係わる答申や学校保健安全法等大きく変動している今日、養護教諭の資質の確保等は喫緊の課題です。本学会設立以来、会員として係わる中で本学会が果たしてきた役割の重要性を再確認しつつ、新たに設置された「学会活動委員会」は、会員との「つなぎ」の役割を持つものと考え、皆様方のご協力を得てこの任にあたりたいと思います。

### 新理事のご挨拶

理事：事務局長

下村 淳子 (愛知学院大学)

この度の役員選挙により中部地区より選出され理事をさせていただくことになりました。あらためて責任の重さに身の引き締まる思いが致します。私は1997年度から2期6年間、理事をしてきましたが、その頃と比べて会員数は倍増し、学会活動も充実してきました。学会規模が格段に大きくなったと感じます。今期の理事会では前期に続いて事務局長を仰せつかりました。会員の皆様からのご意見を学会運営に生かしていくために、事務局体制の充実を図っていきたくと思っています。皆様にはこれまで同様、本学会のためにご理解ご協力下さいますようお願い致します。

### 新理事のご挨拶

理事：会計担当

小林 央美 (弘前大学教育学部)

「養護学って本当にあるの? もっとわかり易ければいいのに」という質問を頂いたことがあります。その時思ったのは、そこに忽然として存在するようなものではなく、地道に研究を積み重ね養護教諭の本質や実践の根拠となる理論を追究し続け、創造し続けていくものではないかということでした。それはまさに本学会ではないかと思えます。今回、鈴木薫理事から引き継ぎ、微力ながら会計で本学会の運営面でのお手伝いをさせて頂くことになりました。どうぞよろしく願い致します。

### 新理事のご挨拶

理事：渉外担当

徳山 美智子 (大阪女子短期大学)

教育改革が進むことで、改めて、養護教諭教育の養成・採用・現職という三つのステージにおける教育の真価が問われるようになりました。今後ますます、本学会に課せられる使命は重くなっていくものと受け止めています。渉外担当理事として、近接領域の研究団体・機関となお一層連携を深めることによって、一人でも多くの人が養護教諭教育に関心を持ち、知識や技術を究め、行動していくことができるよう努めて参る所存です。会員の皆様におかれましても、多くのご意見並びに情報をお寄せ下さい。



る虐待への対応を話し合いたいと考えています。

東北では第4回大会(郡山市、1996年)以来14年ぶりの学会開催です。全国各地の先生方の優れた研究発表や実践への姿勢に触発され、東北地方の養護教諭の実践、研究がより活性化され、熱い議論や交流の輪が広がることを期待しています。

弘前には城下町の佇まいの中に瀟洒な洋風建築があり、フランス料理の街でもあります。太宰治生誕(1909.6.19)百周年記念の年です(金木町)。郊外の温泉郷で、学会後の癒しのひとときを過ごしていただければと思います。懇親会は大学生協において、青森の郷土料理、津軽三味線の演奏をお楽しみ頂きます。

皆様、弘前でお待ちしています。

### 第17回学術集会(弘前)のご案内-第2報-

事務局長 小林 央美(弘前大学教育学部)

1. 期日: 2009年10月10日(土)12時~17時50分  
10月11日(日)8時40分~15時45分  
(プレコングレス:10月10日 9:30~11:20)  
(総会:10月11日 13:00~14:00)

2. 会場: 弘前大学文京町キャンパス

3. メインテーマ:

「養護教諭の実践を問い直すー教育改革の中でー」

4. 内容:

1) 特別講演: 盛昭子(元弘前大学教授)

「実践を支える『養護の原理』を求めて」

2) 教育講演: 佐藤三三(弘前大学教授)「教育改革の意味するものー子ども・学校は今ー」

3) シンポジウム: 「養護教諭の実践をふりかえって・・・見えてくるもの」

4) ランチョンセミナー: 羽二生邦彦「低身長児の診断と治療」

5) ミニシンポジウム: 1「思いを語るー養護教諭養成のこれまでとこれから」、2「虐待をめぐる最近の動向ー養護教諭はどう関わるか」

6) テーブルセッション: 1「特別支援教育をもう一歩進めるにはー養護教諭としてどう関わるか」、2「発達障害への対応をさぐる」

5. 一般演題の募集:

- 1) 口演とポスター発表
- 2) 申込締切: 2009年7月13日(月) 必着
- 3) 抄録締切: 2009年8月21日(金) 必着
- 4) 送付先: 〒036-8560 弘前市文京町1

弘前大学教育学部教育保健講座 面澤研究室

E-mail: menzkazu@cc.hirosaki-u.ac.jp,

TEL: 0172-39-3467 FAX: 0172-39-3463

6. 参加申込等:

弘前大学生生活協同組合シェリアたびSHOP

URL: <http://www.hirosaki.u-coop.or.jp/>

### 助成金研究の経過報告

幼稚園における養護教諭の配置と役割に関する研究

ー園長の意見を中心としてー

代表者: 井澤 昌子(名古屋学芸大学)

本研究の目的は、幼稚園における養護教諭の配置状況や役割について調査し、その必要性を明らかにすることです。先行研究において、既に養護教諭自身や幼稚園教諭から見た養護教諭の必要性に関する調査は行われていたため、本研究では園長を対象とした調査を行い、学校(園)経営の立場から見た養護教諭の必要性を明らかにしたいと考えています。

幼稚園の設置基準には「幼稚園には、養護をつかさどる主幹教諭、養護教諭又は養護助教諭および事務職員を置くように努めなければならない」と定められていますが、他校種と比べると配置率は低く、勤務体制も様々な現状があります。また、学校基本調査等の結果から配置率は地域差が大きいことが分かっています。

調査の方法は、比較的配置率の高い地域での質問紙郵送調査を予定しています。現在は、質問紙調査の内容検討や予備調査の準備等を行っています。質問紙調査の内容は、養護教諭配置の有無(勤務形態を含む)や保健室の有無をはじめ、配置されている学校においては養護教諭の役割、未配置の場合は養護教諭の必要性や保健活動状況などです。

今後も、幼稚園における養護教諭配置の現状、配置の必要性や役割について明らかにできるような研究を深めていきたいと思えます。

養護診断における効果的な問診に関する研究

代表者: 吉田あや子(西南女学院大学)

学会共同研究として本研究を採択していただき感謝申し上げます。

養護教諭が行う問診は養護診断の過程で重要な位置を占めると考えられますが、これまでに体系的な研究が殆んどなされておらず、単純に救急処

置の第一段階に過ぎないと捉えられている状況です。

そこで、本研究は、養護診断における問診について着目し、養護教諭が行っている問診の現状を調査し、その課題をふまえた問診のあり方を提示することを目的にスタート致しました。

本年度は定期的に研究会を開催し、キーワードを基に養護活動における問診等の先行研究の文献収集と分析を行っております。それに加えて養護教諭の専門性にかかわる医学・看護分野の文献を収集し、分析を進めております。

次年度は、学校現場の養護教諭に質問紙調査・インタビュー調査を予定しております。最終的には、学校における実施状況と課題を明らかにし、適切な救急処置と保健指導および生徒との信頼関係構築につながる養護診断における効果的な問診のあり方を提示したいと考えております。

会員の皆様のご協力とご支援を今後ともよろしくお願い致します。



## 学会活動「養護教諭の職業倫理に関する規定の検討委員会」の経過報告



代表 鎌田 尚子 (女子栄養大学)

### 【はじめに】

昨年10月のプレコンgresにご参加いただいた方々を対象に、倫理的な判断やジレンマに関する事例の提供をお願いしましたところ、37人からの提供がありました。ご協力を有難うございました。連携や仕事を進める上で困ったりジレンマに陥ったりした事例は、貴重なエビデンスとして考察させて頂きます。多くの実践事例に裏づけされた倫理綱領にしていきたいと考えます。

### 【職業倫理に関する検討のねらい】

心身の健康課題の解決のためには、養護教諭が専門職として子どもの生命、基本的人権、生存と尊厳、健康権を擁護し、代弁者として、多様な校内外の専門職と情報共有を行い、連携・協働することが求められます。

しかし、学会員への広報を兼ねて昨年のプレコンgresで行った意見交流会では、「初めてで知らない概念や言葉があって勉強になった」という意見が多く、「倫理的であること」の養成教育と根拠理念

を示したマニュアルが必要であると思われました。

十分な検討の上で指針を出したいところですが、本委員会は2008年度～2010年度までの時限委員会です。最終目標は養護教諭の専門性に関わる職業倫理綱領及びその解説書作成を目指すことと考えています。

### 【中期目標】

- ① 職業倫理を必要とした出来事、倫理的なジレンマを感じた事例、ニーズの収集と分析を行い、考察をもとに、定義や概念づくりの考え方やその例示を行います。
- ② 養護教諭の職業倫理について、養成教育や養護教諭の実践の中に位置づける方策を検討します。2008年度の研究成果として、養成大学における倫理綱領のリテラシー教育(養護教諭の専門性と倫理綱領に関する科目と教授内容)が最重要であると思っています。

### 【研究計画】

☆2008年10月：プレコンgres(第16回学術集会/岡山)開催

委員会の設立目的の説明と意見収集を行いました。考え方や必要性に関する意見の相違から、ジレンマ等の事例という実態を踏まえて、専門的決断や優先順位に関する職業上の基準や専門職としての職業倫理綱領の共有についての合意形成の必要が捉えられました。

☆2009年2月～3月：倫理的判断やジレンマに関する事例提供の依頼

依頼した80人のうち37人からの回答がありました。文献による枠組では書き難いということが分かりました。

☆2009年7月：理事会にて活動報告

☆2009年10月：1年次報告(第17回学術集会)

共有する枠組や養護教諭の職業倫理綱領の例示を提案し、合意形成にむけた意見交換を行って集約します。

☆2010年3月または7月：理事会にて活動報告

☆2010年10月：2年次報告(第18回学術集会)

養護教諭の専門性に関わる職業倫理綱領(案)及び解説書の提案を行い、意見交換を集約します。

☆2011年3月：検討内容のまとめ

学会誌第14巻に検討の成果を掲載します。

2009年度の学術集会(弘前)では、第1次報告を行いますので、皆様のご参加と意見交流を

期待します。なお、職業倫理の検討に関するご意見や事例の提供等は、学会事務局または鎌田(Tel&FAX:049-282-3609)までお願いします。

### 学会誌第13巻第1号投稿原稿の募集

「日本養護教諭教育学会誌」第13巻第1号(2010年3月発刊予定)の原稿を募集しています。

養護教諭の実践や、養成教育および現職研修等の養護教諭教育に関する研究を論文にまとめて投稿しませんか?

学会誌誌上で会員が相互に研究成果を交換し合い、それを実践で検証し、さらなる研究と積み重ねによって、より質の高い養護教諭のあり方を追究していけたらと思っています。積極的な投稿をお待ちしています。

- 投稿資格：本学会の会員に限ります。
- 原稿の種類：論壇、総説、原著、研究報告、実践報告、研究ノート、資料、その他です。いずれかを明記してください。
- 募集期間：年間を通して受け付けていますが、第13巻第1号の原稿の最終締め切りは、**2009年9月30日(水)必着**です。査読が終了し受理された論文から掲載しますので、早めに投稿されることをお勧めします。受理までに時間を要する場合には次号以降の掲載となる場合もあります。
- 投稿方法：A4判横書きで作成し、執筆要領や同封物等について学会誌第12巻第1号P.168～173または学会HPで十分ご確認のうえ、編集委員会事務局へ送付してください。

※原稿の送付および問合せは、下記編集委員会事務局をお願いします(学会事務局とは異なりますので、ご注意ください)。

<編集委員会事務局>

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷 4-28-1

国士舘大学文学部 鈴木裕子

TEL 03-5451-8161 (研究室直通)

e-mail [suzukiyu@kokushikan.ac.jp](mailto:suzukiyu@kokushikan.ac.jp)



### 編集委員会委員の紹介

新理事会発足に伴い、編集委員会を改組しました。よろしくお願いいたします。

編集委員長 鈴木 裕子

編集委員 (50音順)

大川尚子(関西福祉科学大学)

大塚典子(横浜市立南戸塚中学校)

鎌田尚子(女子栄養大学)

斉藤ふくみ(茨城大学)

斉藤真佐乃(神奈川県立麻生養護学校)

鈴木薫(岡山大学教育学部附属小学校)

竹田由美子(東京福祉大学)

中川優子(藤沢市立藤ヶ岡中学校)

松田芳子(熊本大学)

道上恵美子(埼玉県立草加南高等学校)

山崎隆恵(神奈川県立綾瀬西高等学校)

### 2010年度研究助成金申請者の募集

学術担当常任理事 高橋 香代

2010年度研究助成金対象研究の募集を行います。研究助成金対象研究は、学会共同研究(学会の特別企画としてメンバーを公募して行われる共同研究)とは異なり、会員が自主的に応募する研究です。学会会員、とりわけ現職養護教諭の皆様には奮ってご応募ください。

2010年度研究助成金の申請書は、学会ホームページからダウンロードをお願いします。申請先は学会事務局で、申請締切は、2009年9月10日(木)です。10月開催予定の2009年度第3回理事会で選定基準に基づいて選定し、2009年10月に開催される年次総会で承認を受けます。

申請書には、①研究テーマ(新規、継続の別)、②予定研究期間(1年、2年の別)、③研究者(所属、年令)、④研究計画「研究の目的」「研究の方法」「研究の独自性」「研究のスケジュール」を、A4版2枚以内でご記入ください。選定基準の主なものは、学会の趣旨に沿った研究目的(養護教諭養成教育、又は養護実践に関する研究)、目的に合致した適切な研究計画、研究の独自性、適正な助成金の使用用途です。不明な点は、担当理事の高橋までメールでお尋ねください。

アドレス：[kayosan2@cc.okayama-u.ac.jp](mailto:kayosan2@cc.okayama-u.ac.jp)

## 理事会等の活動報告

2008年7月以降の理事会等の活動報告は次の通りです。(氏名は50音順)

### ☆理事会

#### 1. 2008年度 第2回

日時：2007年7月20日(日) 12:30～18:00  
場所：名古屋市公会堂(名古屋市)  
出席者：鎌田、後藤、斉藤、鈴木薫、鈴木裕子、高橋、竹田、山崎(欠席：徳山)  
内容：2008年度会計中間報告、研究助成金研究の選定結果、用語の解説集の配布について、第16回学術集会の企画と運営、2008年度総会準備、「学術刊行物」認可の報告等

#### 2. 2008年度 第3回

日時：2008年10月17日(金) 13:00～15:30  
場所：岡山大学教育学部(岡山市)  
出席者：理事9名、貴志知恵子監事  
内容：2008年度総会の運営及び議案確認、2008年度研究助成金対象研究の採択、プレ・コンGRESの進行確認等

#### 3. 2008年度 第4回

日時：2009年1月12日(月/祝) 10:00～17:00  
場所：名古屋市公会堂(名古屋市)  
出席者：理事7名(欠席：高橋、徳山)  
内容：2008年度総会及び第16回学術集会の総括、2008年度事業の経過報告、次期役員引継ぎに向けて

#### 4. 2009年度 第1回

日時：2009年4月26日(日) 10:00～12:30  
新旧理事会、14:30～16:30 新理事会  
場所：名古屋市都市センター(名古屋)  
出席者：旧理事 鎌田、後藤、斉藤、鈴木薫、鈴木裕子、竹田、徳山、山崎(欠席：高橋)  
新理事 後藤、小林、鈴木薫、鈴木裕子、下村、徳山、永田、三木、山崎、吉田(欠席：高橋)  
内容：2008年度事業及び第IV期の総括と会計報告、第17回学術集会進捗状況、2009年度事業計画等



### ☆編集委員会

#### 1. 2008年度 第2回

日時：2008年7月20日(日) 10:00～11:30  
場所：名古屋市公会堂(名古屋市)  
出席者：後藤、斉藤、鈴木裕子、竹田、山崎  
内容：2008年度編集委員会業務と役割分担、学会誌第12巻第1号の企画、ハーモニー第47号の企画等

#### 2. 2008年度 第3回

日時：2008年10月17日(金) 16:00～18:00  
場所：岡山大学教育学部(岡山市)  
出席者：後藤、斉藤、鈴木裕子、高橋、竹田、田嶋、山崎

内容：日本養護教諭教育学会誌第12巻第1号の編集日程、ハーモニー第48号の企画等

#### 3. 2008年度 第4回

日時：2009年1月12日(月) 10:00～12:00  
場所：名古屋市公会堂(名古屋市)  
出席者：後藤、斉藤、鈴木裕子、竹田、中根、山崎  
内容：日本養護教諭教育学会誌第12巻第1号の査読状況と編集作業、学会誌発行までの予定、ハーモニー第49号の準備状況等

◇この他、2～3月に編集・校正作業のための小委員会を4回開催。

### 事務局より

いつも学会員の皆様にはお世話になっております。年度が変わりました。勤務先や自宅住所等の変更がありました方は、事務局宛ご連絡ください。ご連絡は、下記までお願いいたします。

E-mail: JAYTEjimu@yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp

## 編 集 後 記

ハーモニーも回を重ねて49号となりました。本学会の歴史の重みを感じます。会員の皆様とともに、学会をより良いものにしていくために、そして養護教諭を取り巻く環境がより前進することを祈って、紙面作りに励みたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。(F&K)

